

広島大学病院

Hiroshima University Hospital Medical-Dental Liaison News

No. 15
2009. 2

ニュース

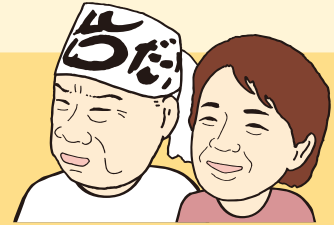


「気合だー!!」で有名な浜口親子が来院!

2008年12月9日、「元気で新しい年を迎えてください」と北京オリンピック日本選手団団長の福田富昭さん、北京オリンピック女子レスリングで銅メダルを獲得した浜口京子さん、元プロレスラーのアニマル浜口さんによる特別講演会を開催しました。



この特別講演会はオリンピックで活躍された人の話を聞くことで、入院生活を余儀なくされている患者さんの励ましになれば、と越智病院長が知人を通じて浜口親子に慰問をお願いしたところ、実現に至りました。



講演で福田富昭さんは「日本選手の北京オリンピックでの活躍」、浜口親子は「親子で取った銅メダル」について語っていただきました。



福田富昭さん



浜口親子



講演終了後、「元気回復を祈念して」110連呼の「気合だー」が会場に響き渡りました。



ご多忙の中、広島まで足を運んでくださった福田さん、浜口親子に病院長からは感謝状、患者さんからは花束がそれぞれ贈呈されました。



福田さん、浜口平吾さん(アニマル浜口)、京子さん、ありがとうございました。

皆様のますますのご活躍を広島より、応援しています。

インタビューしました!



緩和ケアチーム室で
がん看護専門看護師として活躍中の
槇埜良江(まきの よしえ)さんにインタビューしました!



がん看護専門看護師とは、どういったことを専門とされる資格職なのですか。

専門看護師 (Certified Nurse Specialist:CNS) は、日本看護協会が認定する資格のひとつで、特定の看護分野について、大学院で2年間の教育を履修したのち、実践活動のレポートや口頭試問などからなる認定試験に合格して、専門的な看護実践能力を有することが認められた看護師です。看護実践を始め、相談、調整、倫理調整、教育、研究の6つの役割があります。



2009年1月現在、全国で128名、広島県で3名と少ない資格のようですが、この資格をとられたときは全国で何名くらいだったのですか。

私が認定された2005年は、全国で58名、広島県では私1人でした。現在の広島県でがん看護専門看護師は3名ですが、そのうちの1人は当院の職員で、もう1人が私です。



ということは、広島県で3名しかいない2人が当院の職員ということですか。

そうです。昨年11月に、同じ緩和ケアチーム室の織田浩子さんが、がん専門看護師として認定されました。



この資格を目指された理由をおしえてください。

以前、緩和ケア病棟に勤務していたとき、医療は治療を目的としているのですが、その治療が困難な段階の患者さんやご家族への対応に悩み、病棟スタッフと何度も話し合いました。しかし、問題が複雑化し困難な局面を解決していく過程において、専門的な知識・技術の必要性を実感し、この資格を目指しました。



医療現場でしか学ぶことができない大切なことは、どういったことでしょうか。

症状を含めた個々の患者さんを十分に理解することは、がん治療を行ううえで最も大切なことです。患者さんの症状はもちろんのこと、置かれた立場、価値観など人それぞれ違いますから、まずは、患者さんやご家族の病気に対する「個々の体験」を十分に理解することだと思っています。





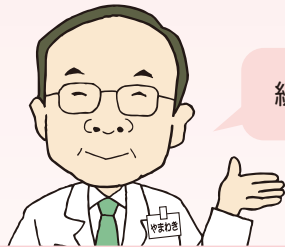
患者さんと接するとき、心がけていることをおしえてください。

患者さん、家族の思いや考えに対して、否定しないこと、尊重すること、です。自分ではない他者への理解として、患者さん、家族だけではなく、普段から心がけています。

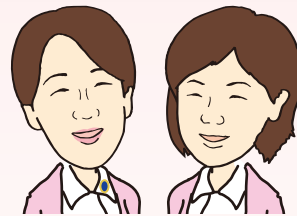


がん看護専門看護師として、患者さんにとってどのような存在でありたいと思いますか。

「がんは、これまでの人生で最大の困難、試練であるから、十分な受けとめと理解、その後の見通しや対処法の指導は、受け入れる本人（患者さん）も家族も救いになった」と話された方がいらっしゃいました。患者さんやそのご家族が、“力を高められるよう” “困難と向き合っていけるよう”そして“少しでも充実した時間を作れるよう”これからも共に歩んでいきたいと思っています。



緩和ケアチーム室長の山脇です。



緩和ケアチームスタッフ



がん看護専門看護師の
榎埜さん(左)と織田さん(右)
広島県で3名中2名のお二人です。
今後の活躍が期待されます。

2008年12月15日 第22回 広島大学病院クリスマス会を開催しました。



沖田ご夫妻によるクリスマスコンサート

クリスマス会では、大学病院の保育園たんぽぽの子どもたちと保育士さんによる劇と院内学級の児童、生徒によるトーンチャイム、ハンドベル演奏を披露しました。

そして、ボランティアで駆けつけてくださいましたヴィオラ奏者の沖田孝司(おきた たかし)さん、千春(ちはる)さんご夫妻によるクリスマスコンサートを開催しました。

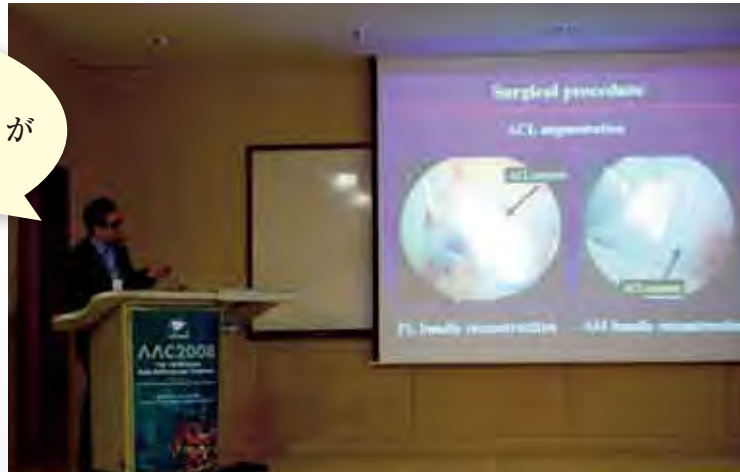
1時間ほどの会でしたが、会場にはすてきな音色が響きわたりました。

AAC2008
The 1st Biennial Asia Arthroscopy Congress
in conjunction with the 9th Korea-Japan Joint Meeting for Sports Medicine



2008年9月18日から20日までの3日間にわたって
韓国のソウルで第1回アジア関節鏡学会と第9回
日韓整形外科スポーツ医学会が開催されました。

招待講演として
越智光夫病院長(教授)が
講演を行いました。



Severance Hospitalは、韓国第1の現代医療機関として1885年に設立されました。新病棟は地上20階、地下3階、病床数は1006床で、最先端の医療が提供されています。21の国から約800人の参加者が集まり、熱い討論が行われました。**2010年は北京での開催が予定されています。**

学会終了後学会に
参加した本院スタッフとの記念撮影。



今回の学会には看護部と診療支援部のスタッフも同行しました。アジア各国の参加者と整形外科スポーツ医学の分野で、交流を深めることができ大変勉強になりました。

私費留学生を病院で支援!

当院では、昨今の円高により私費留学生の学業に支障がないよう、アジアの留学生8名に一律10万円を病院として支援することとし、その贈呈式が2008年12月24日行われました。





お知らせ

2009年1月1日より

「リウマチ・膠原病科」を開設いたしました。

広島で生活をはじめ、1ヶ月ちょっとですが、すでにお好み焼きにはまっています。



当科は不明熱、原因不明の関節炎、関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの膠原病疾患を対象として診断、治療を行っています。とくに関節リウマチの患者さんに対しては整形外科と協力してトータルケアを目指すとともに、最先端の治療を提供し、疼痛緩和、臓器障害の予防に力を注いでいます。

また、免疫抑制薬、ステロイド薬使用時には呼吸器科、内分泌・糖尿病科と連携して、きめ細かな副作用の管理を行っています。膠原病に関するご相談、治療のご希望などありましたら、火曜日、金曜日に初診、再診外来となっておりますので、お問い合わせください。

●診 療 日：火・金曜日の午前中

●お問い合わせ：**082-257-5466**
(平日午後4時30分まで)

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/>

広島大学病院のホームページ



わかりやすく見やすいページづくりを心がけていこうと思いますので、引き続きご愛顧のほど、よろしく申し上げます。

ご意見やご感想を下記へお願いします。

広島大学病院 秘書室広報担当 〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号 Tel 082-257-5014 Fax 082-257-5074